

1) 福島県立医科大学 医学部 衛生学・予防医学講座：

日高友郎, 早川岳人, 辻雅善, 各務竹康, 熊谷智広, 福島哲仁

Masayoshi Tsuji, Takehito Hayakawa, Tomoo Hidaka, Takeyasu Kakamu, Tomohiro Kumagai, Tetsuhito Fukushima

2) 全国健康保険協会 福島支部：

蛭田悠平, 畑淳子

Yuuhei Hiruta, Junko Hata

【目的】医療保険者が産業業種別の健康問題の特徴を把握することは、適切な保健事業の実施に繋がる課題である。しかし産業別に健康状態を検討した研究は少ない。本研究は全国健康保険協会（協会けんぽ）福島支部のデータベースをもとに産業と健康問題との関連を明らかにする。

【方法】協会けんぽ福島支部の被保険者データベースから、平成24年度に同支部の健診を受けた130,344名を対象者とした。対象者は性別、年齢階級（44歳以下、45-54歳、55-64歳、65歳以上）、日本標準産業分類に基づく産業（18項目）、健康リスク（腹囲、血圧、代謝、脂質、メタボリック）によって分類した。年齢調整は、平成24年度協会けんぽ全支部の被保険者の特定健診受診者のリスク保有状況を基準人口とした間接法で行い、健康リスクについて標準化リスク比（SRR）を算出し、SRRの95%信頼区間を算出した。

【結果】建設業、運輸業・郵便業、卸売業・小売業の男性、および医療業・保健衛生の女性は、全てのリスクにおいてリスク比が標準よりも高かった。金融業・保険業、学術研究・専門技術サービス業の男性は腹囲・血圧・脂質・メタボリックリスクのリスク比が高く、医療業・保健衛生の男性、および製造業の女性は血圧・代謝・脂質・メタボリックリスクのリスク比が高かった。情報通信業の男性は腹囲・脂質・メタボリックリスクのリスク比が高かった。血圧リスクは性別・産業を通じてリスク比が高かった。男性は女性よりも多種の健康リスクを持っていた。

【考察】情報通信業、運輸業・郵便業、卸売業・小売業、金融業・保険業、学術研究・専門技術サービス業は業務に付随する身体活動が少ない可能性があり、これらの業種の男性は腹囲およびメタボリックリスクをはじめとした健康リスク保有者が多かった。建設業の男性は、県内の建設需要の高まりによる現場での過重労働などが健康リスクに影響している可能性がある。医療業・保健衛生の女性は看護師が含まれており、夜間勤務等による生活リズムへの影響などの要因が、健康リスクに影響している可能性がある。産業業種および性別を踏まえた保健指導の重要性が示唆された。対象者の実際の労働内容を考慮した調査を今後の課題とする。